

## 展示室7

# 上毛三山をえがく 赤城・榛名・妙義

2023年1月14日(土)～2月26日(日)

「上毛三山」とは、群馬県にある赤城山、榛名山、妙義山の三つの山の総称です。三山はそれぞれ複数の山々から構成され、県を代表する山となっています。人々の暮らしと共に在り、また山岳信仰の対象としても古くから親しまれてきました。

前橋出身の詩人、萩原朔太郎の詩に「帰郷」と題する一編がありますが、彼が暗澹たる思いの中、汽車の車窓から「まだ上州の山見えずや」と詠ったように、山は故郷を象徴するものでもあるのでしょうか。《故山春雪》の雪に覆われた赤城山は、やはり前橋に生まれた高橋常雄にとってまさに故郷を表すものでした。暗い空に浮かび上がる白い山は、心の拠り所かのように静謐に満ちた空間を作り上げています。《前橋敷島河原》では榛名山の複雑な稜線のシルエットと赤く染まる空、その色を映す利根川の流れが、木版画の柔らかな描線で表現されています。80年程前の夕暮れの風景ですが、今も変わらずそこに在り続ける山川によって、旅の版画家ともいわれる川瀬巴水が確かにこの地に赴いたことを実感させてくれます。《早春裏妙義》はメタリックな輝きを見せる空を背景に青や灰、茶褐色といった暗色で岩肌を描いた妙義山がそびえ、山裾に畑や人家といった人の営みが描かれています。画面の大部分を占める岩山は黒々とした力強い輪郭線がとられ、自然の雄大さや畏怖の念をも想起させます。それぞれの作家が描いた上毛三山の風景をおたのしみください。

No.	作者名	作品名	制作年	技法材質・形状	寸法(縦×横cm)	備考
1	高橋常雄	故山春雪	昭和62(1987)年	紙本着色・額装	97.0×162.0	高橋富枝氏寄贈
2	塩原友子	赤城山曼荼羅図屏風	昭和60(1985)年	紙本着色・幀装(四曲一隻)	51.5×160.5	作者寄贈
3	塩原友子	榛名山曼荼羅図屏風	平成元(1989)年	紙本着色・幀装(四曲一双)	各169.5×302.0	作者寄贈
4	川瀬巴水	前橋敷島河原	昭和17(1942)年	木版・紙	24.1×36.7	
5	川瀬巴水	榛名湖	昭和10(1935)年	木版・紙	24.1×36.5	
6	高橋常雄	榛名山	昭和60(1985)年	紙本着色・額装	90.2×116.4	塩本秀雄氏寄贈
7	四方田草炎	岩山(妙義)	昭和22-25(1947-50)年頃	紙本着色・額装	82.1×119.4	四方田節子氏寄贈
8	成田一方	妙義山秋色	昭和時代	紙本着色・額装	227.0×181.1	成田ちか氏寄贈
9	塩原友子	早春裏妙義	平成3(1991)年	紙本着色・幀装(四曲一双)	各169.5×302.0	作者寄贈

\*作品保護のため、会場内の温度、湿度、および照度を調整して展示しています。また、都合により展示作品を変更する場合がございます。ご了承ください。

【次回予告】「墨の力 ―近現代の書―」2023年2月28日(火)～4月9日(日)

大澤雅休や中島邑水、井上有一など、新たな書の表現を追い求めた作家たちによる作品をご紹介します。